

第1節 アンケート結果からみる市民意識や課題

1. アンケートの概要

本計画の策定にあたり、市民が感じている地域の現状や課題、地域福祉に対する考え方を把握し、施策の立案等に活用することを目的に実施しました。

□■アンケートの実施概要

○調査対象者

中学2年生：363人

20～64歳の市民（以下、「20歳以上の市民」という。）：3,000人を対象に無作為抽出

※3,000件郵送の内、11件が宛先不明で返却されたため、対象全数は2,989件

○調査期間

平成28年1月25日（月）～平成28年2月15日（月）

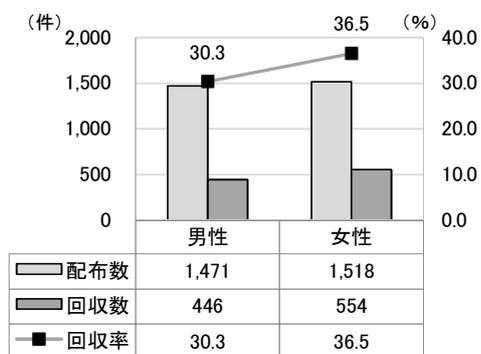
○調査方法

中学2年生：学校を通じた配付・回収

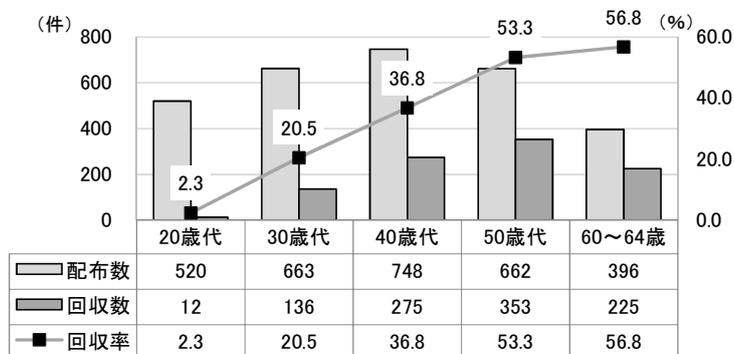
20歳以上の市民：郵送による配付・回収

□■アンケートの配布・回収結果（20歳以上の市民）

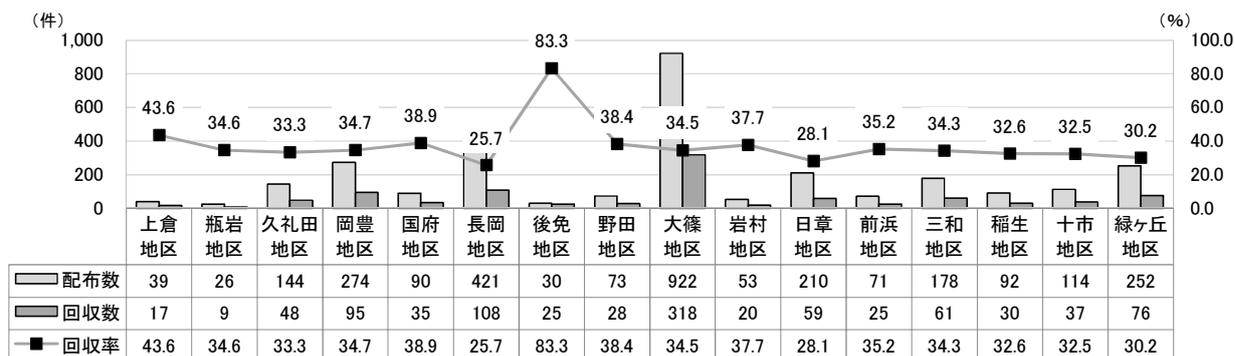
<性別グラフ>



<年代別グラフ>



<地区別グラフ>

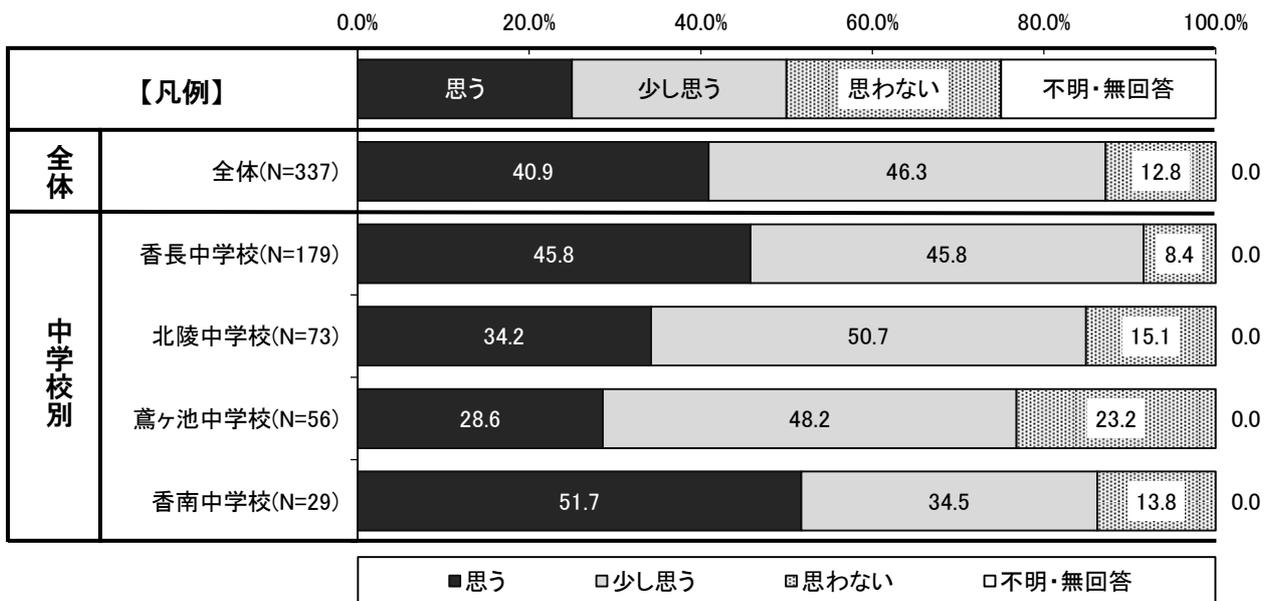


2. アンケート結果（一部抜粋）

（1）中学2年生

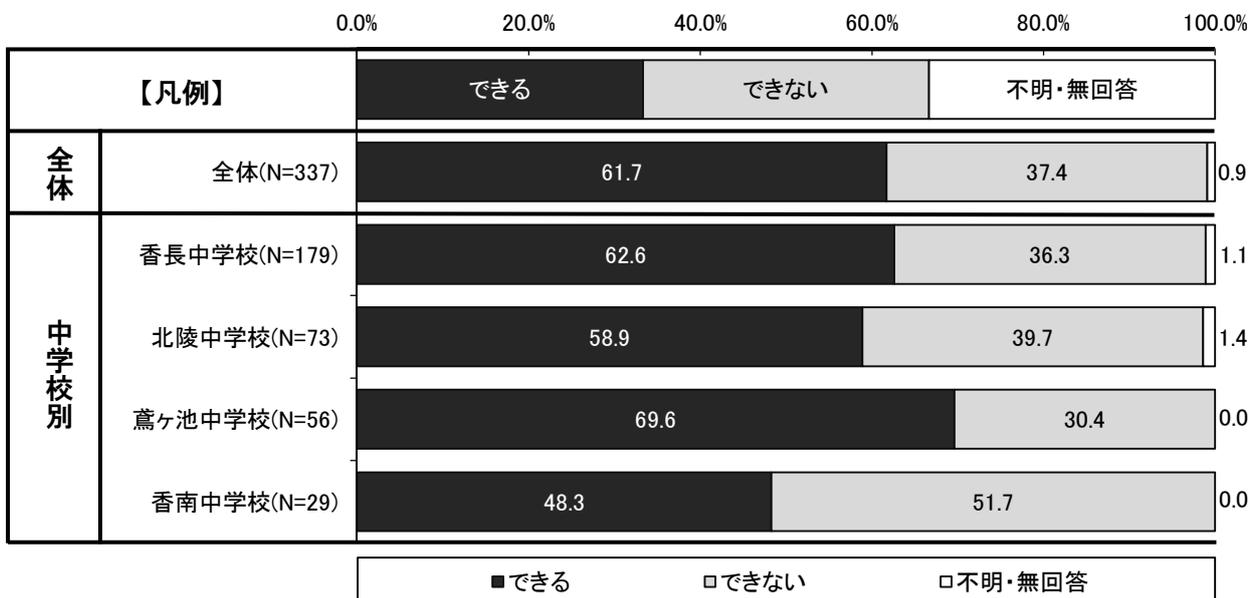
□■将来、南国市に帰ってきたいと思うかについて

将来、進学や就職で南国市を離れることになったとしても、また南国市に戻ってきたいと思うかについて、全体では「思う」と「少し思う」の割合が高くなっていますが、中学校別に見ると、郷土への愛着には地域差があることがうかがえます。



□■近所の人への助けの要請について

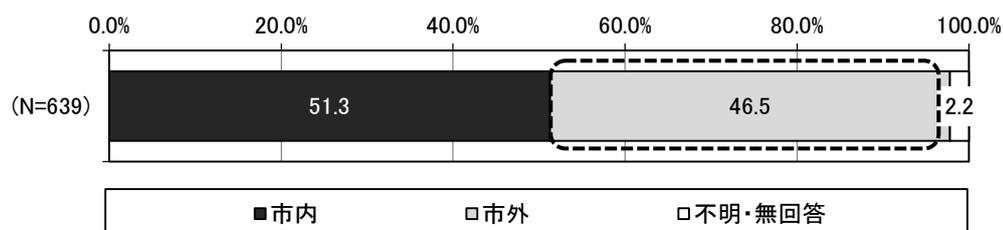
困った時に、となり近所の人に助けを求めることはできるかについて、全体では「できる」が「できない」を上回っていますが、「できない」の割合は4割弱となっており、近所づきあいの希薄化、地域と子どもの関わり方に課題があることがうかがえます。



(2) 20歳以上の市民

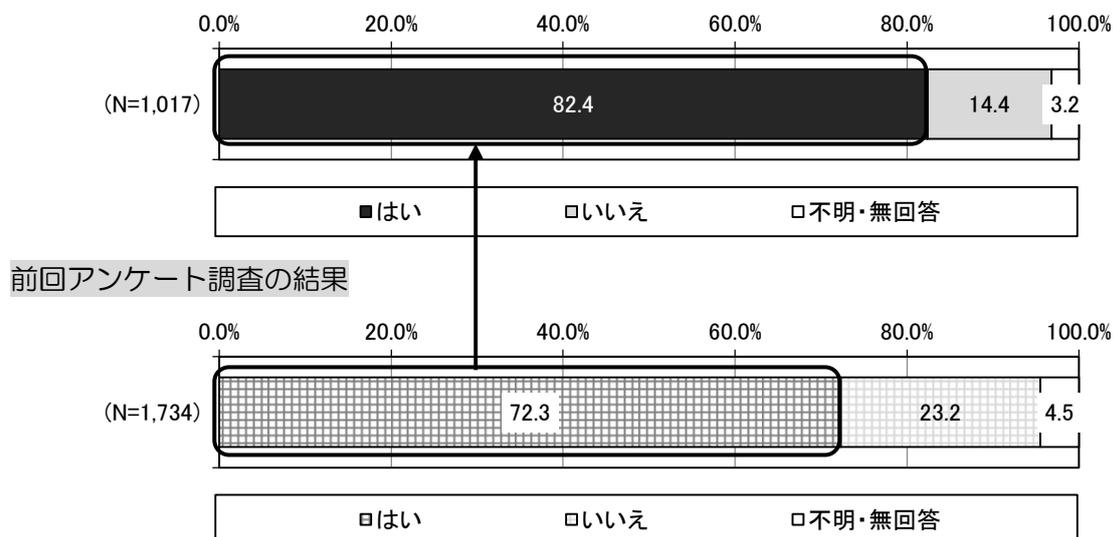
□■勤務先（または通学先）について

勤務先（または通学先）について、「市外」が46.5%となっており、平日の日中には仕事（または就学）をしている世代の約半数は市内にいないことがうかがえます。



□■自治会・町内会への加入について

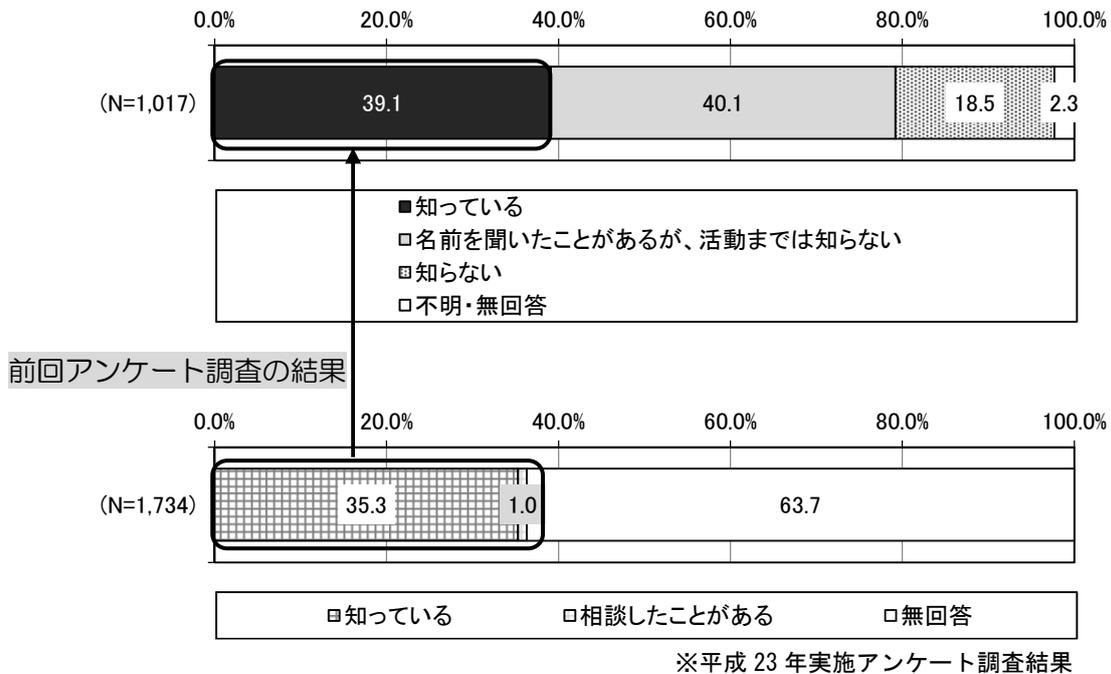
世帯が自治会・町内会に加入しているかについてみると、「はい」が8割を上回っており、前回アンケート調査の結果と比較すると、「はい」が10.1ポイント上昇しています。市民の地域活動への関心が高まっていることがうかがえます。



※平成23年実施アンケート調査結果

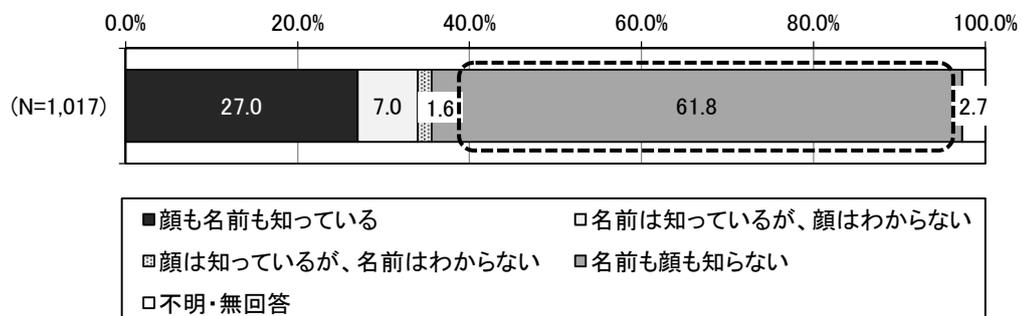
□■社会福祉協議会（社協）について

南国市社会福祉協議会を知っているかについて、前回アンケート調査の結果と比較すると、「知っている」の割合が若干上昇したものの、「名前を聞いたことがあるが、活動までは知らない」がもっとも高くなっており、活動内容の周知・啓発が十分ではないことがうかがえます。



□■民生委員・児童委員について

お住まいの地区を担当している民生委員・児童委員を知っているかについて、「名前も顔も知らない」が6割を上回っており、地域における民生委員・児童委員の認知が十分ではないことがうかがえます。



□■住民の取り組みについて

お互いに力を合わせて、安心して暮らせるまちづくり（地域福祉活動）を進めるうえで、住民が取り組むべきことは何だと思うかについて、「住民相互の日常的な対話や交流を広げる」がもっとも高く、次いで「高齢者や障害のある人と子ども・若い人たちとの幅広い交流を広げる」が高くなっており、地域における、世代や障害の有無を超えた交流の必要性を住民が感じていることがうかがえます。

